

## 21世紀COEプログラム 平成15年度採択拠点事業結果報告書

1. 機関の代表者 (学長)	(大学名)	千葉大学		機関番号	12501
	(ふりがな<ローマ字>) (氏名)	SAI 齋	TO 藤	YASUSHI 康	

### 2. 大学の将来構想

#### ①大学の将来構想

千葉大学の基本的目標は、総合大学として多様な基盤の学問領域を重視し、その深化と発展を図りながら、学際的な文理融合型の新分野創成を視野に入れ、国際的に先導性ある学術・研究領域を切り拓くとともに、創造的な学術環境の中で、課題探求能力に優れた人材を養成することである。

そのため、特に大学院レベルの研究教育の重点的育成を行うことにより、高度専門職業人の養成や各博士課程が世界最高水準の研究教育拠点を形成し得ることを機軸に据えた総合大学を目指している。この目標に向かって、平成8年には理学・工学・園芸学の3研究科を改組して自然科学研究科を発足させ、大学院における学際的な研究教育の充実を図ってきた。さらに、平成11年に将来計画検討委員会を設け、学部・大学院の更なる改革を進めてきた。具体的には、各研究科の強化を目指した再編・統合と学際的、重点的そして萌芽的研究の支援であり、その成果として、平成13年度から医学研究院と薬学研究院並びに医学薬学府が設置され、医薬系については研究組織と教育組織の分離による新しい大学院教育が開始された。さらに平成15年度より、医学と工学の連携による「フロンティアメディカル工学研究開発センター」と園芸学、医学、薬学、教育学、工学、看護学の連携で、「環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター」という2つの学際的なセンターがスタートした。

21世紀COEプログラムでは、大学院博士課程における更なる学術研究の高度化と有為の人材の育成による社会貢献を目指し、先進的・学際的拠点を形成するものである。

平成15年度は、次のプログラムが採択された。

- 1) 「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」
- 2) 「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」
- 3) 「超高性能有機ソフトデバイスフロンティア」

これらについて、国際的に確固たる拠点として発展させ、千葉大学の特徴とし、この拠点化の遂行を通じて、より優れた研究教育の実績をあげる教員を多数輩

出し、国内外からの優秀な大学院生の集中が実現し、自己増殖的に研究教育の活力を増していくことが千葉大学の望むべき将来像である。

#### ②学長を中心としたマネジメント体制

千葉大学は、学長主導により平成13年度より研究教育基盤校費の10%を研究教育高度化のための重点経費とし、大型外部資金に付随する間接経費と学長裁量経費も活用して、各種学術奨励金制度を設けた。これにより、萌芽的研究助成、独創的研究助成、大型な総合研究プロジェクトに助成を行っている。その結果が、フロンティアメディカル工学研究開発センター、環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センターの設立に繋がり、研究基盤を整備した。

また、施設・スペースの整備に関しては、本学の建物すべての利用状況を、情報システムを使って一括把握して、建物施設の効率的かつ必要に応じた弾力的活用を進めた。新たな施設整備に関しては、全学のマスタープランを策定して、施設の充実を進めた。

平成12年度以降に新営された理学系、工学系、大学院自然科学系、大学院社会文化科学系、医薬系の建物はすべて総合研究棟とし、学長管轄の下におく全学共有スペースを確保して、21世紀COEプログラムなどの重点的研究教育プログラムの推進に随時、速やかに対応できるようにしている。部局単位でも時限プロジェクト対応の共有スペースを確保している。このように新たな重点プロジェクト、新たな拠点形成を施設面で支援する体制は整っている。

さらに、将来構想に鑑みた世界最高水準の研究教育体制を構築し、世界に通用する研究成果の発信と人材の育成を目指して、学長を中心にした「拠点形成支援会議」を組織している。

### 3. 達成状況及び今後の展望

#### ①達成状況

千葉大学は、世界を先導する教育・研究領域の拠点形成をめざし、大学全体の活性化・高度化を進め、優れた人材育成と新たな学術領域の創成・開拓を進めてきた。

高度人材育成拠点としての21世紀COEプログ

ラムの採択を、千葉大学の革新的かつ飛躍的發展の好機と捉え、各拠点を世界最高レベルの確固たる拠点として確立するために、学長のリーダーシップと集中化の理念をより鮮明に打ち出し、これらへの重点支援を大学の最優先施策として中期目標に掲げた。

このことから、機動的意志決定・指令機関として学長をリーダーとする「拠点形成支援会議」を発足させ、拠点形成に必要な課題を迅速かつ十二分に検討し、世界最高レベルの研究教育拠点形成に必要な以下の重点支援を行った。

#### 【組織的強化】

拠点の基幹部局を大学院部局化して持続性を保証するため、平成13年度には医学薬学府を創設（医薬系）し、平成19年度には理学・工学および園芸学部からなる自然科学研究科を4研究科〔理学研究科、工学研究科、園芸学研究科、融合科学研究科〕に改組し組織的強化を図った。

#### 【財政的・人的・物理的支援】

学長裁量経費を活用し、1) 拠点への教職員ポストの優先的配分、2) 教育・研究スペースの優遇、3) シンポジウム開催等の国際活動への支援、4) 外部評価実施への支援、5) 若手研究者・院生等への調査・研究活動支援費の増額などを、重点事項として実施してきた。

また、これら拠点の強化と長期的発展に必要なシステム・組織の新規構築をめざし、拠点形成に係わる分野における大学院等の先鋭的改革を行った。

#### 1) 「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」

永続的拠点形成として、医学研究院内に6研究領域からなる1講座を有する新部門「先端腫瘍治療医学」を設置した。また、新設講座に対応させた、「臨床腫瘍部」と「未来開拓センター」を病院内に設立 等。

#### 2) 「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」

看護学研究科の充実を図るために博士後期課程の定員増と学際性・国際性を育成する教育内容を付加した。また、文化を反映した看護学であるところの「文化看護学」という新たな学術分野を創出するために、看護学専攻に「看護病態学」と「看護管理学」の2領域を新設 等。本拠点を活動拠点として「文化看護学

会」を設立。

#### 3) 「超高性能有機ソフトデバイスフロンティア」

本拠点を持続的に発展させるために、「融合科学研究科（ナノサイエンス専攻、情報科学専攻）」を発足させ、「ナノ物性コース」を設置した。また、物理学の基礎教育を行う「ナノサイエンス学科」を新設、更には、実質的連携研究を推進する「分子エレクトロニクス高等研究センター」を発足 等。

#### ②今後の展望

千葉大学では、形成された拠点の持続的發展を期するために、先に述べた、医学研究院に設置した「先端腫瘍治療医学部門」、看護学研究科看護学専攻に設置した「看護病態学と看護管理学の2領域」、融合科学研究科の「分子エレクトロニクス高等研究センター」等を通じて、今後も世界的な研究教育拠点における、教育研究活動を推進していく。

また、1) 意欲のある学生・若手研究者への支援、2) 優れた学生・若手研究者の確保、3) 常勤職員の重点的配置、4) 施設・研究スペース等の整備をはじめとする教育研究活動支援の諸方策は、千葉大学において既に自主的・恒常的に実施しているものであることから、プログラム終了後も、本拠点が世界最高水準の教育研究拠点として継続的・発展的な活動を展開することに問題はない。

これによって、独自の優れた研究教育実績をあげる教員が一層増加し、かつ国内外からの優秀な大学院生や若手の集中化が実現され、さらに新たな拠点が自己増殖的に形成され、大学の活力が増幅されることを期待している。

なお、これらの拠点については、大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、「グローバルCOEプログラム」に申請を行うとともに、採択に向けて、学長のリーダーシップのもと、「グローバルCOEプログラム推進・評価委員会」を中核的組織として設置し、教育総合機構ならびに学術推進機構が恒常的に指導・助言・支援するマネジメント体制を構築する等、全面的に組織を挙げて支援を実施した。結果として、医学、物理学の2分野、2拠点で採択されることとなり、今後、国際的に魅力ある大学院教育・研究をより戦略的に推進し、世界最高水準の大学を目指すものである。